

ハイバイ「ヒッキー・ソトニデテミターノ」

2月9日(金)~22日(木) シアターイースト

詳細はP12へ



作家自らが演じてたどる、傑作のその後

2012年、パルコ・プロデュースで上演された作品を劇団公演として再演。しかも主演を、作・演出の岩井秀人が務める。もともとこの作品は、ハイバイの出世作で岩井自身の引きこもり時代をもとにした『ヒッキー・カンクーントルネード』の続編。引きこもりを脱して社会に出た主人公のその後を追いながら、世間の良識や善意に追い詰められる人がいることを描いていく。苦さとユーモアを絶妙にブレンドしたハイバイ流の灯りで、人生の迷路をそっと照らしてくれる作品になりそうだ。

作・演出: 岩井秀人
 出演: 岩井秀人 平原テツ 田村健太郎 チャン・リーメイ 能島瑞穂
 高橋周平 藤谷理子 猪股俊明 / 古舘寛治

eyes plus 鳥公園「鳥公園のアタマの中」展

2月27日(火)~3月4日(日) アトリエイースト

詳細はHPへ



思索、創作、制作の軌跡を、丸ごと

2013年に芸劇が開催した、注目の若手女性劇作家のショーケース『God save the Queen』に参加し、その後、順調に活躍の場を広げてきた鳥公園が、アトリエを使って意欲作を発表。主宰・作・演出の西尾佳織は、作品が“結果”ではなく、終わらない創作の“経過報告”であることを年々、強く示すようになってきているが、まさにその過程をオープンにするようだ。一筋縄では行かないが、いつもよりひとつ深い思考のヒントをくれる西尾の頭の中を、たっぷりのぞかせてもらおう。

コンセプト: 西尾佳織

芸劇eyes 烏丸ストロークロック「まほろばの景」

3月1日(木)~4日(日) シアターイースト

詳細はP13へ



圧倒的なせりふ力を持つ京都の劇団、登場

京都を拠点に活動する人気劇団、烏丸ストロークロックが芸劇eyesとして登場。作・演出の柳沼昭徳は、演劇界の芥川賞と言われる岸田國士戯曲賞2016年度の最終候補にノミネートされるなど、実力は折り紙付き。文学的でありながら生活感を見事にすくい取るせりふで、発展から取り残された地方都市の景色と、そこに暮らす人々の姿を、温度や湿度や匂いも込みで伝える。『まほろばの景』は、仙台で故郷を失った男の物語を、時間をかけて編んできた新作。貴重な東京公演を見逃さないでほしい。

作・演出: 柳沼昭徳 音楽・演奏: 中川裕貴
 出演: 阪本麻紀 / 澤雅展 / 角谷明子 / 小菅紘史(第七劇場) /
 小濱昭博(劇団短距離男道ミサイル) / 松尾恵美

P8・文: 徳永京子

COMING UP NEXT 2018. 4-7

演劇・ダンス ラインナップ

4月27日(金)~5月26日(土)
 「酒と涙とジキルとハイド」
 プレイハウス

作・演出: 三谷幸喜
 チケット発売: 1月13日(土)

5月15日(火)~6月3日(日)
 イキウメ 図書館の人生
 vol.4「襲ってくるもの」
 シアターイースト

作・演出: 前川知大

モダンスイマーズ 句読点三部作連続再演企画
 シアターイースト

作・演出: 蓬萊竜太

4月19日(木)~29日(日) 「嗚呼いま、だから愛。」
 6月7日(木)~17日(日) 「悲しみよ、消えないでくれ」
 7月20日(金)~29日(日) 「死ンデ、イル。」